

## 平成29年度 第3回北九州市食品衛生懇話会 議事録概要

1 開催日時：平成30年2月19日（月）13：30～15：30

2 開催場所：総合保健福祉センター6階 61会議室

3 出席者：

- (1) 学識経験者：大里会員
- (2) 消費者：永田会員、桑島会員
- (3) 食品事業者：世尾会員、保明会員
- (4) 生産者：島田会員
- (5) 行政：[事務局]

保健福祉局保健衛生課  
[オブザーバー]  
保健所東部生活衛生課・西部生活衛生課  
保健福祉局食肉センター・保健環境研究所  
産業経済局農林課・水産課

4 議題

- (1) 平成30年度北九州市食品衛生監視指導計画の策定について
- (2) 食品衛生に関する話題

5 議事（概要）

- (1) 開会  
事務局 開会の挨拶
- (2) 出席者紹介
- (3) 会員による意見交換等

座長挨拶

座長（大里）

急に気温も冷え込むなど、体調を壊しやすい時期であるが、ご多忙のところお集まりいただき感謝する。

さて、本日の議題は「平成30年度北九州市食品衛生監視指導計画の策定について」と、「食品衛生に関する話題」の2点である。議事のスムーズな進行について、ご協力をお願いする。

それでは、さっそく「平成30年度北九州食品衛生監視指導計画の策定」について、事務局から説明をお願いする。

## (1) 平成30年度北九州市食品衛生監視指導計画の策定について

**事務局** <資料を用いて説明>

**座長(大里)**

事務局から説明があったが、この内容についてご意見やご質問等はないか。

### ～市民センターでの啓発について～

**消費者(永田)**

市民センターに行く機会がよくあり、多くのチラシが入っているコーナーの中に食品衛生のチラシも入っているが、掲示板などにも貼ってもらってはどうか。

**事務局**

市民センターには、役所内の色々な部署から多くのチラシの配布依頼がある状況であり、あまり多く依頼をするというのは競争率も高く難しい。

### ～スーパーのバイキング形式について～

**消費者(永田)**

スーパーのバイキング形式でそうざいを売っているようなところで、客が自分で取ってパックに詰めるのが流行っていると思うが、くしゃみをするお客さんもいたりして不衛生なので、透明なフタなどしてもらえたらよいのではないか。

**保健所**

バイキング形式で食中毒が発生したときに、パック詰め商品が一気に増えた時期もあったが、今はまたバイキング形式が増えてきている。客が自分で取り分ける形式は客自身にとっても魅力があるようで、完全になくなるというのは難しいようだ。業者の方では、スプーンやトングなどの交換時期を早めたり、パックのチェックの巡回回数を増やすなどの対策をしている。保健所の職員も監視の際には衛生管理の状況が保たれているか、注視したいと思っている。

**消費者(桑島)**

スーパーと大型スーパーの違いはどのような規模によって分けられているのか。

**事務局**

大量調理施設には定義があるが、大型スーパーについては厳密な定義自体はない。

**座長(大里)**

食品売り場の面積を広く取って食品のみを売っているようなところ、デパートのように食品以外にも多く取り扱っているようなところ色々があるが、漠然と大型スーパーとしてい

るのか。

#### 事務局

売り場の面積が何m<sup>2</sup>以上など、明確な規定はないが、大型スーパーというのは、食品そのものが日々市民の方の毎日の生活のために使われるようなスーパーと違って、市外からこられるような方が利用するなど食品の流通が広がるようなところである。感覚的には、扱う食品の量とそこに集う消費者の種類で分けさせてもらっている。

#### 事業者（保明）

当社も大型スーパーの方と付き合うことが多く、彼らの品質管理のレベルはすごく高いと感じている。F S S Cを取っておかないといけないとか、従業員の行動規範のようなものや、当社の社内規範にプラスして彼らの企業理念も理解しなければ付き合わないといったように、要求事項は非常に高い。そういった細かいところを守れていないところは、大規模な事業者とはいえないのかなと感覚的に感じているところである。

### ～リスコミの市政だよりによる募集について～

#### 消費者（永田）

市政だよりは若い方よりも高齢者が多く見ているのではないかと思うが、小さいお子さんを育てているお母さんに対するPRをやっていたきたい。

#### 保健所

リスコミには色々な事業があり、食の安全たんけん隊というのも市政だよりで募集してやっているが、小学校高学年を対象としており、そういった子を持つ親御さんに多く見て頂けているようだ。食品衛生市民講座については、平日に開催していることもあり年配の方がどうしても増えるが、これも人気はあり抽選になっている。なお、1日食品衛生監視員委嘱事業については、市政だよりでは広報していない。

#### 事務局

区役所には栄養士や保健師がおり、栄養相談や育児相談の際にあわせて、食中毒など食の安全についてもお話しさせていただいている。

#### 消費者（桑島）

リスコミの事業実施には企業との協力が大事ということであるが、新たな協力企業を探すにあたっては市からどのように働きかけしているのか。

#### 保健所

職員が日頃の監視のなかでピックアップしたうえで、協力をお願いしているという形になっている。監視をする際に上から目線での指摘のような形ばかりだけでなく、良好な関係も築くことができるように気をつけている。

### ～簡易版(ダイジェスト版)について～

**消費者（永田）**

ダイジェスト版で文字ばかりではなく、漫画を使ってはどうか。

**事務局**

良い案であり検討はしたいと思うが、量が膨大になるというのもあるので、挿絵を増やすなどという形を考えていきたい。

### ～市政だよりへの掲載について～

**座長（大里）**

市政だよりの中で、食品衛生に関するスペースを大きく確保することは難しいのか。

**事務局**

紙面をとることに精一杯な状況である。年に2回は定例で夏場とノロウイルスの時期に確保しているところではある。

**消費者（永田）**

載せるときに見出しを赤に指定してもらなどはできないのか。

**事務局**

原課から出すのは文面だけで、後のデザインなどは統一されており市政だよりの担当部署が作成している。

### ～若者への啓発について～

**消費者（桑島）**

小中学生に対する学校へのチラシの配布は大事だと思う。自分で自炊をする機会が増える大学生や専門学生に対する啓発があればいいと思う。

**事務局**

大学生の場合は、毎年どこも学園祭で食品のバザーがあり、そういった機会を利用して保健所の職員が衛生教育を行っている。

### ～医師会や薬剤師会との協力連携について～

**消費者（桑島）**

医師会の場合は、医師が診断したときに保健所に届出されているということだが、薬剤師会への周知徹底というのは何をさしているのか。薬局やドラッグストアとの連携の中で市がやれることは何があるのか。

**保健所**

薬剤師会の会長については保健所運営協議会の委員になっていただいております、機会があれば食中毒のお話などもさせてもらっているが、薬剤師会自体に何か直接的な協力まではお願ひしていない。

## ～HACCPについて～

### 生産者（島田）

漁業は6次産業化ということで、水産課の協力もありいろいろな事業者が加工場などを作っているが、資料の中にある「中小規模の事業者に対しての助言や指導」というのがどの程度のものなのか。それから前回、HACCPについての資料も目を通してもらったが内容が難しく、水産業をやっている方がこれをやっていけるのか。組合の援助もほぼ無いようなところもあるが、本当にこれを導入していけるのか心配である。

### 水産課

水産課は、市民のみなさまに市内産のおいしい魚介類をたくさん食べてもらうために、漁場造成や資源管理の支援の他、水産業の6次化も推進している。施設を作るだけの支援だけでなく、食品を採るとき、加工するとき、販売するときはこういった衛生管理が必要ですよといった、ハード面だけでなくソフト面についての支援も必要であると考えている。HACCPというのは食品のリスクをどう管理していけばいいのかという考え方であり、食品を扱ううえでどこに注意しないといけないのか助言をしていきたい。

### 保健所

危機管理点を事前に察知して、事故が起こらないようにそこで集中的に管理するというのがHACCPの考え方である。例えば海藻の加工であれば、冷蔵保管の温度管理を重点的にしてもらえば大きな事件にはならないだろうと、そういう風にシンプルに物事を考えてもらうために、HACCPの助言を行える人材も保健所で育成中である。認証型の施設からそうでないところまで、業態に応じて広く助言し指導していきたい。

### 事業者（保明）

当社もHACCPを取得するにあたっては、自治体の支援や国の支援ももらいながらモデルとして取らせて頂いた。認証型は本当に厳しいものだが、取得することで確かに大きな事故はなくなる。お客様が本当に求めている異物混入などを100%ゼロにできるというわけではないが、企業として拡散性の高い事故を防ぐうえで非常に有効な仕組みと考える。ただ、HACCPは食品偽装という最近の状況には対応できておらず、FSSCの方が食品偽装の要求事項を含んでいるので、両方を使いながら安全管理に務めさせていただいている。

また、先日HACCP指導員の育成のための場として当社を選んでいただいたが、工場にこられる行政の方はホッチキスを使っていることが多く、当社ではホッチキスの混入事故が結構あるということで使用しないようにしており、こういった管理方法について当社からも情報発信をして、機会あるごとにコミュニケーションを図っていかれたらと思う。

### 事業者（世尾）

食品衛生協会の会員の中には、HACCPの義務化に対して不安を感じている者が多くいるが、平成30年度に中小規模の事業者を対象として、行政から講習会を開いたり啓発

を進める予定はあるのか。

**事務局**

HACCPの講習会について、新たに実施するという計画は具体的には立っていない状況であるが、今後考えていかないといけないということは理解している。

**～給食について～**

**事業者（世尾）**

私の資格としては食品衛生指導員のみで、監視員の資格は持っていないが、給食施設に保健所を通さずに立入するのはどのようにすればよいか。

**保健所**

学校給食はほとんど全て民間委託になっている。教育委員会も学校給食について親御さんには興味を持ってもらいたいということで色々と広報しているが、食品衛生協会の指導員が立入するのは抵抗があるかもしれない。教育委員会にどういう目的で入るのか、PTAの立場として入るのか指導員の立場として入るのかを明らかにしたうえで、校長や学校保健課に相談されるというのはいかがでしょうか。

**座長（大里）**

今出た意見は後ほどしっかりと整理して頂きたいと思う。

続いての議題は「食品衛生に関する話題について」である。まずは事務局から説明をお願いします。

**（２）食品衛生に関する話題について**

**事務局** <資料を用いて説明>

**座長（大里）**

事務局から説明があったが、この内容についてご意見やご質問等はないか。

**～アニサキスについて～**

**消費者（永田）**

以前の懇話会の際に、アニサキスはよく噛んだら良いという話があったが、食育の観点も含めてよく噛むことについてPRをしたらどうか。

**座長（大里）**

よく噛んで食べなさいと啓発するのは、実際のところ積極的にPRできるようなことなのだろうか。それよりも冷凍をして、寄生虫の感染能力を失わせることの方がPRをした方がよいのではないか。

### 保健所

一般的には嘔んだら死ぬとは言われているが、明確に科学的な根拠があるわけではない。厚生労働省としては、調理して出すときの食べ方の指導よりも、食べる前に除去されていることの方が食品衛生の基本だろうということで、調理人が除去したり、加熱したり、冷凍したりといった対策をとることを啓発している。保健所の方としても、厚生労働省の考えにならって、調理時に除去したうえで提供してくださいと言っている。

### 消費者（桑島）

アニサキスの生活史を見せていただいて、このようなサイクルの中で人の口に入ったときに食中毒が起こるのだな、ということが分かりやすかった。アニサキスが事件として取り上げられたときに、こういった情報も一緒に取り上げられると、消費者の頭にも残りやすいのかなと思う。テレビで芸能人がアニサキスについて触れたときに、すごく胃が痛くて医者を取ってもらったらよくなったという話しをしていて、芸能人がちょっと話をするだけでも、生で食べるときはアニサキスに注意しないといけないのだな、ということがよく周知される。食中毒の話題が取り上げられるときの、啓発の仕方は大事だと感じる。大事なことを繰り返し啓発しても消費者になかなか周知されないときには、啓発の仕方について皆でアイデアが出していければと思う。

### 事業者（保明）

当社では明太子や缶詰を作っているが、死んだアニサキスも結構混じっていて、人体には影響はないが見るとやはりグロテスクで、魚の筋であってもアニサキスとしての苦情が消費者からあがるくらい、周知されてきていると感じる。当社ではサバの養殖もやっており、養殖であれば食物連鎖を絶てるので理論的にはアニサキスはおらず、この辺りを広めながら当社製品の安全性のアピールをしていきたい。

## ～野菜について～

### 消費者（永田）

野菜への異物混入という観点で、クリップやホッチキスがパック詰めの中に入っていたら子供さんが口に入れてしまう危険もあり、野菜の管理はどうなってるのかと疑問に思っている。2020年のオリンピックではGAPが推奨されており、農家にGAPの認定を取ればお金もかかり負担が大きいけど、そこまでいなくても考え方を教えてあげることで、農家の方のリスク管理にもなりよいのではないかなと思う。北九州市はGAPの推奨などを行っているか。

### 農林課

北九州市の農家には、グローバルGAPという一番厳しい世界基準のGAPに対応している農家も数軒ある。GAPといっても色々なレベルがあるが、一般農家についても少なからず対応してもらっている。例えば収穫した後に、納屋で袋詰め作業を行う場合などに、GAPの一つのありかたとして作業環境の整備をしっかりとやる、当然異物混入はあってはならないのでしっかりとやる、農薬の使用履歴を残す、などといった取り組みをJAが

中心となってやっている。昔に比べれば、北九州市の農家さんに意識はついてきていて、GAPに対応しているという状況になっている。

#### 事業者（世尾）

2年後の東京オリンピックを見据えたときに、北九州市内で基準に達する野菜を生産できる農家はいるのか。日本で生産した農産物でまかなえるのか。

#### 農林課

先ほども話があったように、グローバルGAPというのがヨーロッパの厳しい基準で、若松の農家で認証を取っているところであれば、世界どこへ出しても基準に適合する。認証を受けるに当たっては手数料がすごく高いのがネックになっているが、今は色々なGAPがあり、福岡県独自のGAPなどもある。農家は本来であれば無駄な薬剤散布などはしたくはないが、商品として市場に出回るからには虫がついていたらだめだとか、規格が違ふとだめということで、生計を立てるためにやむを得ずやっている。国際基準にかなうGAPについては、認証の手数料が高いという問題はあるが、全国的にはオリンピックに向けてGAPの取り組みはなされているような状況である。

GAPは農薬や化学肥料を全く使っていないというものではなく、国の基準にあったものをいつ・どれだけ使ったかということが、履歴として残る信用のためのものである。日本の農薬の基準は、世界の基準に比べても高水準である。保健所でも抜き打ちの検査をやってもらっているが、直売所で引かかることはほとんどない。日本の農産物は非常に安全だと思っている。昔ながらの有機農法というのもあるのだろうが、そればかりでは品数も揃わない。市場に出ている農産物は安全なものと思ってよいと考えており、さらにグローバルGAPを認証されたものは、何か問題が起こればすぐに履歴を遡っていけるということで、安心して頂いてもらえると考えている。

#### 座長（大里）

近隣諸国から輸入している野菜も多くあり、特に中国や韓国からも野菜が多く入っているため、その辺りの管理も所属は違うかもしれないが、注意をお願いしたいと思う。

### ～馬島や市場について～

#### 生産者（島田）

自分はこういった会に参加させて頂いているので、食品衛生の情報を色々と得ることができるが、一緒にやっている仲間たちの耳に届いてるのかわからない。加工業を行っている人や商売をしている人もいるので、そういったところにも情報が届くよう、今後もよろしく指導して欲しい。

#### 座長（大里）

前回の懇話会でも話題にあがったが、市場でカラスが糞をするということで非衛生的な状況があるという話が出たが、その後はよくなっているか。

#### 保健所



市場は今後建て替える計画となっている。取り急ぎ応急措置はしているか、鳥の完全な対策までは難しいのではないかと聞いている。馬島の漁協の方には中央卸売市場まで魚を持ってきて頂いているが、食品衛生の情報を提供することに関しては、水産課を通してでも直接保健所に行っていたとしても、講習会の講師派遣なども受け付けているのでよろしくお願ひしたい。

#### 座長(大里)

離島は人口は少ないと思うが、離島にあっても非衛生的な環境で魚介類の販売がなされるのは心配であり、そういったところにも行政の目を向けて頂きたい。

#### ～閉会～

#### 座長(大里)

これからも色々なことがあると思うが、消費者・生産者のみなさんも一緒に力を合わせて北九州市民の台所、市民の命を守っていくということで、今後もみなさま方のご尽力を心から期待したい。

#### 事務局

長時間にわたる意見交換を頂き感謝申し上げます。今回いただいた意見を踏まえて、本日もいただいたご意見等を参考に、必要に応じて内容修正を行ったうえで来年度の監視指導計画を策定し、3月末までに公表する。

なお、今回の内容については、議事録としてまとめ、前回と同様ホームページで公開させていただくのでご了承頂きたい。

次回の懇話会の開催については、今年度の計画の実施結果がまとまる6月下旬から7月上旬頃に開催したいと考えている。

なお、懇話会は任期が2年となっており、今年度は今回が最終ということで第7期は閉会とさせていただきます。

第8期の懇話会にあたっては、後日また個別にご相談させていただきたいと考えている。

この食品衛生懇話会は、平成16年から始まっており、第1回から大里先生に座長を努めてもらっているが、大里先生の方から第7期を持って引退したいという話を頂いている。

#### 座長(大里)

7期の最終回ということで、私も今回で引退をさせていただくようお願いをした。今後は若い皆様方に頑張っていただきたい。消費者、生産者、事業者の方々が一生懸命に活動しておられ、また市の当局の現場の方々も一生懸命に指導されている姿も見えてきた。そしてその中から色々な意見が出て、市民の命を守るための努力が続けられた。14年間、会に携われたことを光栄に思っている。これからは是非頑張っていただきたい。大変お世話になった。

#### 事務局

以上で、平成29年度第3回北九州市食品衛生懇話会を終了する。